

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記5の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(都道府県広域捕獲活動支援事業、鳥獣被害防止対策高度化事業)及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和元年度～令和3年度報告)

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見
										被害金額(千円)			被害面積(a)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
清水町鳥獣被害防止対策協議会	清水町	令和元年度～令和3年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	推進事業	(R2) 猟犬用発信機3基	清水町鳥獣被害防止対策協議会	-	-	猟犬用発信機を用いることで効率的な捕獲作業を行うことができた。	8	15	▲75%	3.4	8	▲187.5%	<p>猟犬用発信機を用いて効率的な捕獲活動を行うことができている。被害金額及び被害面積について共に目標値に達することができなかった。</p> <p>清水町は例年被害額及び被害面積が小さいことから、目標値について非常に厳しく設定していたが、近年ニホンジカによる被害の増加等があり、実績値が微増した。</p> <p>引き続き適切な被害防止対策を行う必要がある。</p>	<p>被害金額及び面積がともに少なく、局所的な発生にとどまっていると推察される。</p> <p>今後については被害が増加している地域で捕獲を含む各種被害対策を進めてほしい。</p> <p>(静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 上席研究員 水井陽介)</p>
				緊急捕獲活動支援事業	(R1) イノシシ7頭 ニホンジカ1頭 ハクビシン0頭	-	-	年間を通じ7、8頭の有害鳥獣の捕獲ができた。近年、ニホンジカの捕獲頭数が増えてきている。									
					(R2) イノシシ7頭 ニホンジカ1頭 ハクビシン0頭	-	-										
		(R3) イノシシ5頭 ニホンジカ2頭 ハクビシン0頭	-	-													

注1: 被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
 2: 都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
 3: 事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
 4: 「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
 5: 鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。